

OIST 新型コロナウイルス対応 基本方針

2022年6月7日 体裁及び文言調整
2021年12月1日 制定

2021年11月現在、日本では非常事態宣言も解け、感染ピークは収まり、日常が戻ってきたようにも感じられる。しかし世界に目を転じれば、いまだ収束とは言い難く、予断を許さない状況である。このような状況下において、沖縄科学技術大学院大学（OIST）は感染対策を万全なものとしつつ、可能な限り日常の活動を再開させていく段階にある。

これを実現させるために、次を基本方針とする。

- OIST の教職員及び学生並びに関係者が安心して日常を過ごし、OIST で学び、研究し、活動し、働くことを通じて多くの機会と意義を見出すことのできる場を取り戻す。
- OIST 教職員及び学生並びに関係者は対話を重ね、協調して具体的な対応を迅速に推進する。
- OIST の感染対策は原則として沖縄県の方針に従う。ただし、OIST の国際性・多様性に十分配慮する。
- OIST は、業者を含む OIST 関係者に、「新しい生活様式」による基本的な感染防止対策の徹底、ワクチン接種又は PCR 検査等を推奨する。ただし、身体的な事情も含め、様々な事情でワクチン接種や PCR 検査等を受けられないことを理由に、差別や排除・機会が奪われる等の不利益が及ばないよう最大限配慮する。

段階と目安 (国のレベル分類)	研究活動	授業等	出張	学内会議	イベント (学術・ビジネス)	クラブ・ レクリエーション 活動
0 新規感染者がゼロ	基本的な感染対策を施し、通常業務を遂行する。					
1 安定的に一般医療とコロナ医療が両立可能	ファカルティ及びユニット/セクションの管理体制による感染防止対策を徹底することで研究活動を行う。	十分な感染防止対策を施したうえで、対面及びオンラインを併用して実施する。	出張先の感染状況を確認したうえで出張する。	十分な感染防止対策を施したうえで、対面及びオンラインを併用して実施する。	十分な感染対策を施したうえで、沖縄県の対処方針に従い実施する。	
2 感染者が増加傾向。段階的な病床増でコロナ医療が可能			出張後は PCR 検査等の受検を原則とする。			
3 一般医療を相当制限しないとコロナ医療に対応できない。従来の「ステージ3・4」にあたる。	ファカルティ及びユニット/セクションの管理体制による感染防止対策を徹底することで研究活動を行う。	原則、オンラインで実施する。定期試験や学位論文審査、実技・実験・実習等、対面での実施が必要な場合は、十分な感染防止を施したうえで、実施する。	業務上やむを得ない場合に限り出張ができる。	原則、オンラインで実施する。対面での実施が必要な場合は、十分な感染防止対策を施したうえで実施する。	原則、オンラインで実施する。	
4 一般医療を大きく制限してもコロナ医療に対応できない。			出張後は PCR 検査等の受検を原則とする。			
	ただし、現場での滞在時間を減らし、オンラインでの活動を推奨する。	原則、オンラインで実施する。	原則、禁止とする。	原則、オンラインで実施する。		